



セレナーデ水和剤

版番号 1/J
102000031169

1/8
改訂日: 2019/10/15
印刷日: 2019/10/15

1. 製品及び会社情報

1.1 製品情報

製品名 セレナーデ水和剤
製品コード (UVP) 84486507

1.2 推奨用途及び使用上の制限

使用 殺菌剤

1.3 安全データシート作成者

供給者情報 バイエルクロップサイエンス
株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5

電話番号 03-6266-7419

FAX番号 03-5219-9735

担当部門 生産本部 QHSEグループ

1.4 緊急時の連絡先

グローバルインシデント対応 +1 (760) 476-3964 (Company 3E for Bayer AG, Crop Science Division)
ホットライン (24時間対応)

2. 危険有害性の要約

2.1 物質または混合物の分類

JIS Z 7253 / GHS分類マニュアルによる分類 (改訂4版)

皮膚感作性: 区分1
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

2.2 ラベル要素

JIS Z 7253 / GHS分類マニュアル (第4改訂版) による表示

供給/使用のための危険有害性の表示が必要である。



注意喚起語: 警告

危険有害性情報

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ



セレナーデ水和剤

版番号 1/J
1020000311692/8
改訂日: 2019/10/15
印刷日: 2019/10/15

注意書き

- P261 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレートの吸入を避けること。
P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P280 保護手袋を着用すること。
P302 + P352 皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。
P333 + P313 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。
P362 + P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P501 内容物／容器の廃棄は地域の規則に従い行うこと。

2.3 他の危険有害性

粉じんは空気中で爆発性の混合物を生成することがある。

3. 組成及び成分情報

3.2 混合物

化学名又は一般名

水和剤（WP）

Bacillus subtilis strain QST 713 $\geq 5,0E+09$ CFU/g

危険有害成分

| 名称 | 化学名 | CAS番号 / 官報公示整理番号 | 濃度 [%] |
|------------------------|-----|-----------------------|--------|
| バチルス ズブチリス QST-713株 | | | |
| 珪藻土 | | 61790-53-2 (1)-548 | 22.5 |

項目 4: 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

危険域から避難させる。被災者を安全な場所で安定な姿勢にさせること。（片側を下にして横にする）。直ちに汚染された衣類を脱がせ、安全に廃棄すること。

吸入

新鮮な空気のある場所に移動する。患者を暖かく安静にしておく。直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。

皮膚接触

石鹼と水で十分に洗い流すこと。症状が持続する場合は、医師に連絡する。

眼に入った場合

直ちに、最低15分間はまぶたの内側も含め、多量の水でゆすぐ。コンタクトレンズを装着している場合は、着用した状態で最初の5分間洗浄した後に取り外し、更に洗浄を続けること。刺激があり継続する場合には医療機関で診察を受ける。



セレナーデ水和剤

版番号 1/J
102000031169

3/8
改訂日: 2019/10/15
印刷日: 2019/10/15

飲み込んだ場合 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

取り扱い 症状に応じた治療を行う。胃洗浄は摂取後2時間以内のみに有効と考えられる。活性炭と硫酸ナトリウムによる処置は常に有効と考えらる。特に解毒剤なし。

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤 水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。

5.3 消防士へのアドバイス

消火を行う者の保護 消防士はNIOSH（《米》国立労働安全衛生研究所）認可の自給式呼吸器を装着し、完全防護服を着用すること。

詳細情報

燃料を供給する物質には適切な消火剤を使用する。

煙が出ないようにすること。風上の位置から消火活動をすること。火災時は水を噴霧して密閉容器を冷却すること。火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

注意事項 許可されていない人を遠ざけること。危険有害区域を隔離すること。漏出した製品や汚染された表面との接触を避けること。

6.2 環境に対する注意事項

地表水、排水口、地下水に入らないようにすること。機器の洗浄や機器の洗浄水を含む廃棄物の処理により、地表または地下の水を汚染しないでください。ラベルに記載されているとおりに本製品を使用してください。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

除去方法 粉塵の発生を避ける。こぼれたものは、掃きとるか掃除機で吸い取り、適切な容器に移し、廃棄する。汚染された床や物を徹底的に清掃し、環境規制を遵守すること。

追加アドバイス 保護具を使用する。材料が誤ってこぼれた場合は、土壌、水路または廃水路に入らないようにしてください。



セレナーデ水和剤

版番号 1/J
102000031169

4/8

改訂日: 2019/10/15

印刷日: 2019/10/15

- 6.4 参照すべき他の項目** 安全な取り扱いに関する情報は第7項を参照すること。
個人用保護具に関する情報は第8項を参照すること。
廃棄物処理に関する情報は第13項を参照すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

- 安全取扱注意事項** 十分な換気を確保する。容器をこぼれないように取り扱うこと。
- 衛生対策** 本製品を取り扱った直後に個人用保護具（PPE）を取り外すこと。汚れた衣服を直ちに脱がせ、洗濯し再使用すること。徹底的に洗浄し、きれいな衣服を着用すること。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

- 保管場所および容器の必要条件** 乾燥した涼しい場所に保管するとともに、他の農薬、肥料、食料、飼料と一緒に保管することによる二次汚染を避ける。最初に入っていた容器を使って、子供が近づかないように、できれば鍵の掛かった保管場所に保管する。
直射日光を避ける。
- 適切な容器包装材料** LDPE（低密度ポリエチレン）

項目 8: ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

| 成分 | CAS番号 | 管理濃度 | 更新日 | 基準 |
|------------------------|------------|--------------------------------|---------|------------|
| バチルス ズブチリス QST-713株 | | 20,000,000 CFU/m ³ | | OES BCS* |
| 珪藻土 (吸入性粉じん) | 61790-53-2 | 0.5 mg/m ³ (TWA) | 05 2010 | JPJSOH OEL |
| 珪藻土 (総粉じん) | 61790-53-2 | 2 mg/m ³ (TWA) | 05 2010 | JPJSOH OEL |

*OES BCS: Bayer AG クロップサイエンス部門内 "Occupational Exposure Standard"

8.2 曝露防止

保護具

通常の使用および取り扱い条件では、ラベルおよび/またはリーフレットを参照してください。それ以外の場合は、以下の推奨事項が適用されます

呼吸用保護具

欧州規格EN149FFP3、EN140P3、又は同等規格に適合する粒子フィルターマスク付き（防護係数20）の呼吸用保護具を着用すること。
呼吸用保護具は、封じ込め及び/又は局所排気装置など、発生源からのばく露の軽減対策を取ったうえで短時間の活動の残留リスクを管



セレナーデ水和剤

版番号 1/J
102000031169

5/8

改訂日: 2019/10/15

印刷日: 2019/10/15

| | |
|------------|--|
| | 理するために使用すること。装着及びメンテナンスに関しては製造元の説明書に従うこと。 |
| 手の保護具 | ネオプレンゴム、ブチルゴム、バリアラミネートゴム、ニトリルゴムなどの防水素材製の耐薬品性手袋 |
| 眼の保護具 | サイドシールド付き安全眼鏡 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 標準的なつなぎの作業着とカテゴリ3タイプ5の化学防護服を着用すること。 可能であれば、2層の衣類を着用すること。 ポリエステル/綿または綿のオーバーオールを化学防護服の下に着用し、よく洗濯すること。 |
| 一般的な保護措置 | ラベルの指示に従って使用された場合、この製品に関連する既知の危険はない。以下のガイドラインに従うこと。 粉塵を吸い込まないように留意。 皮膚や眼への接触を避けること。 取扱い後、食べたり、飲んだり、ガムを噛んだり、タバコを喫煙したり、トイレを使用したり、化粧品を使用する前に、石けんと水で徹底的に手を洗うこと。 |

9. 物理的及び化学的性質

9.1 物理的及び化学的性質の基本情報

| | |
|---------|-------------------|
| 形状 | 粉末 |
| 色 | 淡褐色 |
| 臭い | 土のにおい、甘い臭い |
| pH | 3.0 - 7.0 (100 %) |
| 引火点 | データなし |
| 爆発範囲の上限 | データなし |
| 爆発範囲の下限 | データなし |
| かさ密度 | ≥ 0.6 g/ml |
| 粘度 | データなし |
| 爆発性 | データなし |

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

非該当

10.3 危険有害反応可能性

規定の指示に従い保管・取扱いした場合、危険有害性反応は起こらない。
通常の状態では安定。



セレナーデ水和剤

版番号 1/J
102000031169

6/8

改訂日: 2019/10/15

印刷日: 2019/10/15

10.4 避けるべき条件 極端な温度と直射日光。

10.5 配合禁忌 データなし

10.6 危険有害な分解生成物 データなし

項目 11: 有害性情報

11.1 毒性情報

急性毒性（経口） データなし

急性毒性（吸入） データなし

急性毒性（経皮） データなし

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 わずかな刺激効果 - 表示は必要なし (ウサギ)

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 わずかな刺激効果 - 表示は必要なし (ウサギ)

呼吸器感作性又は皮膚感作性 感作を起す (モルモット)

特定標的臓器毒性－単回ばく露

バチルス ズブチリス: 入手可能なデータによれば、分類されない。

特定標的臓器毒性－反復ばく露

バチルス ズブチリスは、動物実験において特定の標的臓器毒性を示さなかった。

変異原性

バチルス ズブチリス: 微生物検査は不要です。

発がん性

バチルス ズブチリス: 微生物検査は不要です。

生殖毒性

バチルス ズブチリス: 微生物検査は不要です。

発生毒性

バチルス ズブチリス: 微生物検査は不要です。

詳細情報

それ以上の毒性情報はない。



セレナーデ水和剤

版番号 1/J
1020000311697/8
改訂日: 2019/10/15
印刷日: 2019/10/15

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性 LC50 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)) 162 mg/l
ばく露時間: 30 d
有効成分による値

水生無脊椎動物に対する毒性 EC50 (Daphnia magna (オオミジンコ)) > 30 mg/l
ばく露時間: 21 d
有効成分による値

12.2 残留性・分解性

生分解性 バチルス ズブチリス:
生分解性の評価は微生物には関係しません。

12.3 生体蓄積性

生体蓄積性 バチルス ズブチリス:
生物蓄積性の評価は微生物には関連しない。

12.4 土壤中の移動性

土壤中の移動性 バチルス ズブチリス: 土壤中の移動性の評価は、微生物には関係しない。

12.5 PBT および vPvB の評価結果

PBT および vPvB の評価 バチルス ズブチリス: PBT/vPvB特性の評価は、微生物には関連しない。

12.6 その他の有害影響

生態系に関する追加情報 本製品自体のデータは、無い。
その他の生態学系に関するデータなし

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等産業廃棄物に関する法律、都道府県および市町村の関連条例に従って処理すること。

14. 輸送上の注意

国内規則

| | |
|-----------|-----|
| 鉄道および道路輸送 | 非該当 |
| 指針番号 | 171 |
| 海上輸送 | 非該当 |
| 航空輸送 | 非該当 |

包装、容器が破損しないように水濡れや乱暴な取扱いを避ける。

IMDG 非危険物



セレナーデ水和剤

版番号 1/J
102000031169

8/8
改訂日: 2019/10/15
印刷日: 2019/10/15

IATA_C 非危険物
IATA_P 非危険物

15. 適用法令

15.1 物質または混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

農薬取締法

登録番号 : 23046 (Bayer CropScience K.K.)

消防法

非該当

労働安全衛生法

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR)

非該当

16. その他の情報

1. 本資料の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、記載内容は新しい知見により改訂されることがあります。
2. 記載の注意事項は通常の実施を前提とした参考情報です。取扱いの際は用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。
3. 本資料は情報提供の目的のために作成されたものであり、その記載内容を保証するものではありません。

中毒の緊急問い合わせ先 : 公益財団法人 日本中毒情報センター

中毒 1 1 0 番 一般市民向け相談電話 医療機関専用有料電話
(情報提供料:無料) (情報提供料:一件2,000円)

大 阪 (365日、24時間対応) 072-727-2499 072-726-9923

つくば (365日、9時~21時対応) 029-852-9999 029-851-9999

最も最近の版以降の変更は、余白に特記してあります。この版は、これまでの全ての版に代わるものです。